

「言葉について」

3年 E.N

自分の意見はあるのに、うまく言葉が引き出せずに、自分の言いたいことを伝えられない。そんな経験をしたことがある人は少なくないと思います。中学三年生になり、授業やテストで自分の意見を書く機会が増え、私は自分の言葉の豊かさというものについて考えさせられることが多くなりました。

小学生のときから読書が好きで、そのため自分で文章を書いたりすることも得意でした。しかし、私が徐々にそういうことに苦手意識を持ち始めたのは、中学受験がきっかけだったように思えます。それは、評価をされたり点数をつけられたりしない自由な文章から、正解を求められる文章へと変わったからです。

そこで、今回私はこの感話を通して、もう一度言葉について考えてみようと思いました。

まず、言葉は何のために存在するのでしょうか。

一つは、必要な情報を伝えるための手段です。伝えたい情報や自分の気持ちを相手に伝える為には、もちろん言葉は欠かせません。つまり、言葉は自分の思想を形にするものであるということです。

では、その「形」とはどういったものなのでしょうか。誰もが同じような言葉を使い、同じ場面で決まった言葉を使うのでしょうか。

人間が使う言葉は、そんな機械的なものではないと思います。

例えば国によって使う言葉は全然違いますし、同じ国でもそれぞれの地域に方言があったりします。また、地域によつての違いだけではなく、性別や年齢、時代、またその人の性格によつても話し方や使う言葉は異なります。

では、なぜそのような違いが言葉に生まれるのでしょうか。私は、言葉は生きているものだと思うからです。人間は古くから世界各地に住んでいて、住んでいる集落が自分にとっての「世界の全て」であり、その中でコミュニケーションを取っていました。やがて人々は移動し、交流することで言語を進化させていきます。言葉は生きている、という少し変な感じがするかもしれませんが、そうして人々によつて作られ、文化や歴史などによつて特徴をもつ言葉はやはり生きていると言えるのではないのでしょうか。私はこのことから言葉は与えられるだけではなく、作っていくものであると思いました。

ですが、言葉を作ったのは昔の人で、現代の私たちはただ与えられた言葉を使っているのだと思う人もいます。日常生活の中で、「もうそんな古い言葉使わないよ」と感じる時はありませんか。それは、昔に流行ったけれど今では使われなくなった、いわゆる「死語」というものです。反対に私たちは今までに無かった「若者の言葉」を使ったりもします。生きては死に、を繰り返す言葉は現代も進化し続けることがわかります。

今までの私は言葉に対して受け身になってしまっていたのですが、言葉は人間が作ってきたものなのだという風に考えると、少し言葉に対して積極性を持つことができたように思います。